

News vol. 7

2002.APR

島根県古代文化センター



島根県立博物館の名品たち1

土 笛

全国出土数の7割をしめる島根に特徴的な祭器
松江市タテチョウ遺跡・西川津遺跡
弥生時代

卵形をした土製の素焼きの笛で、中国の陶埙^{とうげん}がその原形といわれています。上部に吹き口孔、前に4つ、後に2つの孔があげられており、指の押さえ方でさまざまな音色がでます。土笛は山口県綾羅木遺跡出土例が初見で、その後日本海側の弥生遺跡を中心に10数カ所、58個あまりが出土しています。島根県ではタテチョウ遺跡出土の完形品が初見ですが、その後の調査でタテチョウ、西川津両遺跡あわせて38点が出土し、全国出土数の約7割を占めています。

土笛を出土する遺跡が弥生時代前期に限られること、稲

作の伝播と合致することなどから、農耕祭祀の演奏に用いられた祭器の可能性も考えられています。

タテチョウ、西川津遺跡ともに松江市東部を流れる朝酌川岸に位置し、縄文時代から中・近世におよぶ複合遺跡で、さまざまな遺跡や遺物が多量に発見されました。タテチョウ遺跡では銅鐸の石製の舌が、西川津遺跡では1997年(平成9)に銅鐸が発見され、島根の弥生時代を考えるうえで貴重な遺跡です。(近藤加代子「土笛」、『神々の国悠久の遺産』、島根県教育委員会、1998年より)

歴史民俗博物館および古代文化研究センター 建築設計競技 最優秀作品決定

大社町、松江市にそれぞれ整備する、歴史民俗博物館と古代文化研究センターの建築設計者の選定については、昨年11月から公募による設計競技（エスキスコンペ方式：簡易な図面の提出を求めて設計案を決定する方法）を行ってまいりましたが、このたび両施設の最優秀作品各1点が決定されました。

現在、平成18年度中の開館をめざし、それぞれの施設の基本設計を行っています。設計案の進捗状況については、随時、古代文化センターニュースおよびホームページ（<http://www2.pref.shimane.jp/kodai/>）でお知らせする予定です。お楽しみに。（なお、「歴史民俗博物館」、「古代文化研究センター」という名称は仮称です。）

1 歴史民俗博物館

(1) 設計者

(株) 横総合計画事務所 (東京都渋谷区)

代表者 横 文彦 1928年東京生

現代日本を代表する建築家で、国内はもとより海外でも高い評価を得ており、洗練されたデザインで知られる。

代表作：幕張メッセ、京都国立近代美術館

(2) 作品の概要

鉄筋コンクリート造 一部3階建て、面積約10,500平方メートル

敷地東側に建物を配置し、敷地西側は豊かなグリーンゾーンとして確保することにより、出雲大社神苑との連続性を図るとともに、北面する北山山系の景観を保持するよう配慮されている。

また、建物西側に張り出すガラス張りの開放的な空間には、眺望の良いレストランや展望ロビーが配置され、来館者が展示鑑賞の合間に、

周辺の歴史環境・自然環境を存分に体感できるよう計画されている。

(3) 作品の評価

敷地東側に寄せた建物配置やガラスを用いた透明性の高いエントランスに見られるように、出雲大社や北山山系など、周辺の歴史環境・自然環境と調和するべく、様々な配慮がなされているとともに、島根の悠久の歴史・文化を語る博物館にふさわしい風格を備えている。

島根の歴史上重要な「たたら製鉄」を想起させるコールテン鋼で仕上げられた外壁は、歴史・文化の継承と発展を担う拠点施設であることを強く内外に主張することが期待できる。

また、建物内部が明快な諸室配置となっているため、来館者にとって快適であると同時に、館の効率的な運営及び文化財の安全な管理が可能となる。



2 古代文化研究センター

(1) 設計者

(株) 宮本忠長建築設計事務所

(長野県長野市)

代表者 宮本忠長

1927年長野県生

長野を拠点に活動し、それぞれの地域の歴史・風土に根ざした建築や町並みの計画をおこなうことで定評がある。

代表作：森鷗外記念館、
北九州市立松本清張記念館

(2) 作品の概要

鉄筋コンクリート造 一部2階建て
面積約5,700平方メートル

「出雲国風土記」に記された古代の風景を想起させる歴史景観を持つこの地に、周辺の里山の植生を広げながら、沢筋の生態系を蘇生させることにより、豊かな自然環境の醸成を目指している。その中に周辺の

景観にマッチした緩やかな勾配を持った屋根と土壁風の外壁を持つ建物を配置することで、素朴で美しい風景を創出しようとしている。

(3) 作品の評価

土壁風にしつらえた外壁と緩やかな勾配の屋根を持つ建物を敷地南側に配置することにより、周辺の歴史景観や自然景観に溶け込み、八雲立つ風土記の丘の中心に立つ建物としてふさわしいものとなっている。

また、長く張り出した軒庇、二重構造の外壁と屋根は、建物の耐久性を高めるとともに、収蔵する貴重な文化財を保護するために適した計画となっている。

一方、内部空間は、来館者にとって明快で利用しやすい構成であると同時に、調査研究を効率よく行うことのできる機能的な配置となっている。



両施設の整備スケジュール（予定）

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
歴史民俗博物館	設計者選定	基本設計	実施設計	建築工事	外構工事		開館
古代文化研究センター	設計者選定	基本設計	実施設計	建築工事	外構工事		開館

島根県立博物館 平成14年度スポットコーナースケジュール

～ 5月12日(日)	古代の響き - 発掘された楽器三題 -
5月14日(火)～ 7月14日(日)	(仮) 山陰の古代仏教 法王寺観音菩薩立像、県指定文化財大智度論、三田谷I遺跡出土鉄鉢をはじめとする出土品から、山陰の古代仏教の姿を紹介します。
7月16日(火)～ 9月16日(月)	(仮) 島根県立博物館コレクション1 近年寄贈されたコレクションから、意東焼を中心とする『島根の工芸』に収録された陶磁器などを展示します。
9月18日(水)～ 11月17日(日)	(仮) 発掘 古墳時代の祈りとまつり - 大田市鳥井南遺跡の祭祀遺物 - 近年注目をあびた大田市鳥井南遺跡出土の 人形・武器形・鏡形などの土製模造品を展示し、県内でも例のない古墳時代の祭祀遺跡、祭祀遺物の性格を紹介します。
平成15年 11月19日(火)～ 1月19日(日)	(仮) 懐かしの一畑パーク 昭和36年から昭和54年まで一畑山上にあった遊園地。遠足などでよく訪れた一畑パークの様子を写真や映像を中心に紹介します。
1月21日(火)～ 3月23日(日)	(仮) 石見銀山の生活 - 仙の山の遺跡から - 石見銀山遺跡の出土品などから、石見銀山での生活の様子を紹介します。
3月25日(火)～ 5月25日(日)	(仮) 神々の姿 - 石見の神像 - 当館に寄託されている石見地方の神像を紹介します。



島根県指定文化財 紙本墨書大智度論(天平6年)



銅造誕生釈迦仏立像(白鳳時代)



鳥井南遺跡出土遺物(鏡形)(大田市教育委員会所蔵)



鳥井南遺跡出土遺物(人形)
(大田市教育委員会所蔵)

休館日 1... 毎週月曜日、月曜日が祝日の場合は開館し、その翌日以降の最初の休日ではない日を休館日とします。ただし、4月30日(火)は開館します。
2... 12月29日(土)～ 1月3日(木)(年末年始)

お知らせ 平成14年4月2日(火)より、小中学生の入館料が無料となります。ご家族連れで、また学校の授業などご利用ください。
また、団体利用時、事前にご連絡いただければ、学芸員により展示品の解説を行います。是非ご利用ください。



御取納丁銀



一畑パーク



一畑パーク

出雲国風土記を歩く5

—意宇郡山国郷—

山国郷はフツヌシノミコトに愛された場所でした。風土記に記された地名起源伝承によれば、フツヌシノミコトがこのあたりを巡行していた時、「止まず（＝絶えず）いつまでも眺めていたい国だ」と絶賛したことに由来すると記されています。この山国郷はどこにあったのでしょうか。吉田川はかつて伯太川の支流でかつて山国川と呼ばれていました。早春の午後、フィールドワークに出掛け、この吉田川流域をさかのぼってみると、上吉田町別所の小さな小山の上に「先前社」と書かれた祠があります。遠方からその小山を中心とした別所の集落を眺めてみると、なんとなく心が落ち着くのです。気になって『雲陽誌』を見ると、なんと先前社の祭神はフツヌシノミコトと記しているではありませんか。「なんだ。ここが、山国郷か。だとすると、先前社の小山はフツヌシノミコトの降り立った場所かも。ひょっとしてここには、オオクニヌシの国作りよりももっと身近な国作りの伝承

があるのでは...」と、どんどんインスピレーションが湧いてきます。小山上に神が降り立たと伝えられる社があって、その周囲に人々の生活空間が広がり、そのまわりを青垣山が囲んでいる。これこそ、故郷としてのクニ（国）という言葉の原義を彷彿させる景観と言えましょう。歴史の教科書では弥生時代後期の動きをムラからクニへという図式で説明する場が多いのですが、学術用語としてのクニとは別に古語としてのクニ（国）の持つ意味をしっかりと研究する必要があります。（森田）



調査研究事業最新情報

祭礼行事 調査から

隠岐国分寺蓮華会舞

隠岐郡西郷町池田

平成14年度の民俗芸能記録作成（写真・ビデオによる）として、まずは4月21日（日）の隠岐国分寺の蓮華会舞を計画しています。これについては以前昭和55年にも記録作成を行いました。当時は16mmフィルムの時代であり、また舞の全容をすべて記録したものではありません。今回改めてハイビジョンビデオカメラによる全容記録を計画しました。成果品の活用については、地元保存会における後継者への伝承、古代文化センターにおいて県内外の研究者を交えての比較研究等に活用していく他、広く一般に向けても平成18年度開館予定の県立歴史民俗博物館（仮称）での映像展示に活かしていく方向です。事業紹介についてはここまでにして、それでは、対象となる蓮華会舞についての紹介に入ります。

蓮華会舞とは、隠岐国分寺に古来より伝わる、いわゆる舞楽の流れを汲むとされる芸能です。舞楽は古代、朝鮮半島や中国より、渡来人や遣唐使交流などを通じてもたらされた外来の舞と奏楽であり、当時の宮廷や大寺院において華やかに、かつ荘厳に演じられていました。ここ隠岐国分寺の蓮華会舞がいつ頃までさかのぼり得るのか明確なことは分かりませんが、ただ、この古代の舞楽の要素を色濃く伝えていることは確かであり、残されている古い舞楽面も平安時代末期にまでさかのぼると考えられています。かつて（記録が残る

江戸時代に）は旧暦6月15日の「蓮華会」に際して舞い納められていたようですが、明治時代以降は、弘法大師空海の命日（旧暦3月21日・新暦4月21日）に嘗まれる「正御影供」において舞い納められるようになりました。4月21日当日は、13:00から本堂において「正御影供」が嘗まれ、続いて四天王の御輿を中心に大導師、舞手、楽人の全員が境内特設舞台へと行道します。そして舞台上にて「四天王祈願祭」が行われた後、「眠り仏之舞」「獅子之舞」「太平楽之舞」「麦焼き之舞」「山神・貴徳之舞」「龍王之舞」「仏之舞」が舞い納められます。還りの行道は全員が「入れ舞」と称する奉納成就の喜びの舞を演じながら本堂へと還って行きます。時間にしておよそトータル3時間。桜花舞い散る隠岐国分寺にて、今なお息づく古代文化を感じてみてはいかがでしょうか。（錦織）



仏之舞



麦焼き之舞

